

令和6年度 第1回奈良県たばこ対策推進委員会 議事概要

日時：令和7年3月12日（水） 14：30～16：00

場所：奈良県庁2階 第3会議室

出席者：青木久美子、先山元英、高橋裕子、仲谷尚起、二神洋二、水谷勝則（五十音順）

（委員長 挨拶）

奈良県の喫煙率が4位になったが、奈良県が手を抜いた訳ではなく、よい意味での競争があったと考える。また県だけでなく薬剤師会・医師会・歯科医師会等団体が協力してきた結果である。

依存性疾患に基づくため、喫煙率は手を緩めると上昇する。手を緩めてなくとも、加熱式たばこ・電子たばこの普及による影響で全国的に喫煙率が上がりつつある。

環境整備（受動喫煙対策）・知識の啓発（教育）・治療（禁煙支援）が重要であり、さらなる進展の為に議論できればと考える。

【議題1】

① 令和6年度たばこ対策の取組（実績）について

事務局より資料1～3について説明。

（委員長）

補足説明として、環境整備・教育啓発・禁煙支援がバランスよく実施できている。

禁煙支援リーフレットは平成27年に作成、改定しながら今でも多くの場所で使用している。世界禁煙デーや市町村のたばこ対策分析評価の様に保健所等が地道に啓発を進めてくれていることに感謝したい。

禁煙支援は禁煙外来と薬局が2本の柱となる。外来に治療に行くのは敷居が高く、手軽に相談できる薬局での相談を受けられることは何より大切である。これからも進めて頂きたい。

20歳未満の者の喫煙防止対策は相談件数は少ないが、この事業があることにより、学校の先生方の「治療すべき事である」との認識が徐々に広がっている。

受動喫煙防止対策事業の相談が変わらず多くあるが、相談が減ることが一概にいいとはいえない。行政相談することができるということが1つの拠り所にもなっている。

（委員）

（禁煙支援協力薬局について）登録数に対して相談件数が少ない。また、COPD 保健指導用リーフレット（資料4-4）に「薬局に相談しましょう」とあるが、薬局でどんな相談ができるのか入っているとちょっと相談が増えるのではないか？

(委員長)

ニコチンパッチでも十分治療できるが、チャンピックス（内服薬）が出荷停止の状況で全国的に禁煙外来が減少してきている。ご指摘の通り、COPD 保健指導用リーフレットについて「禁煙外来」ではなく「禁煙治療」と記載して薬局についても言及した記載に変更を提案する。

(委員)

禁煙支援リーフレットについては、奈良経済産業協会でも会員企業等へ配布協力可能。配布先・配布方法を県で検討して頂きたい。

(事務局)

現在もイベント等、機会を捉えて配布を行っている。各団体にもまたご協力を頂けるとありがたい。

(委員)

(禁煙支援協力薬局の) 相談件数が少ない状況は残念であるが、実際には比較的簡単なアドバイスの場合は計上されていない可能性が高い。

(委員長)

医療者のアドバイスは、一言でも1年後に4%の禁煙の成功率を作るので、決して無駄ではない。処方を見れば、疾患が大体見えてくる。その時に禁煙の事も一声かけて頂き、報告に含めてもらえればと考える。

(事務局)

報告の仕方について、現状は FAX・郵送・メールでの報告となっている。報告しやすい方法・様式についても検討していきたいと思う。また相談させて頂きたい。

② 令和6年度奈良県における禁煙支援対策（COPD）について
事務局より資料4について説明。

(委員長)

COPD を切り口に禁煙に関心を持ってもらうのもよいと考える。COPD の検査・治療できる医療機関リスト作成については医師会の協力があつた方がよいと考える。

奈良市でリストを作成しているが、どういった経路で調べたか？

(委員)

元々COPD の啓発事業はデータヘルス計画に基づいてヘルスアップ事業という形で、事業を開始した。専門の医師と協会けんぽと協力しながら事業を進めてきた。

リストアップについては奈良市医師会のネットワークの中で医師会が主体となって作成。

(委員長)

たばこ対策推進委員会としては奈良県でリストを作成する場合は奈良県医師会と協力して作成する方向で結論づけたい。本日は県医師会の樋上委員が欠席であるため、協力頂けるか確認を事務局に願います。

(事務局)

樋上委員を通して県医師会に調整させて頂く。

登録の質問項目について、ご意見を頂きたい。

(委員)

奈良市では市医師会の専門職の意見を踏まえて作成した。

(委員長)

奈良県医師会からも何らか条件の提案がある可能性がある。県医師会の意見を確認した上で委員長と県の方で協議する。

【議題2】

令和7年度奈良県のたばこ対策の計画について

事務局より資料5について説明。

(委員)

喫煙は歯周病にも影響するため、禁煙支援アドバイザー研修について、歯科医師会に通知して頂き、参加できるようになればよいと考える。

(事務局)

歯科医師会には通知していなかった為、検討する。禁煙支援協力薬局の登録要件となっているため、会場の状況も含めて検討したい。

(委員長)

禁煙支援アドバイザー研修では薬剤師向けの講演内容となっているため、他の機会に歯科医師・歯科衛生士向けの講演を行う方がよい可能性がある。

(委員)

薬局の登録数が減っているが要因は何か？

(委員)

薬局によって禁煙指導に対する姿勢が異なる。会社の方針で登録しない所もある。

(委員長)

全国的な話になるが、禁煙をしたいと思う人が減っている事も要因の一つ。これは加熱式たばこ・電子たばこの普及が要因であると考えられる。加熱式たばこ・電子たばこのリスクについて知識の啓発が必要である。